

第110回全国図書館大会長崎大会 第1回準備委員会

日時:令和5年9月27日(水)14:00~16:00

会場:ミライon図書館 1階多目的ホール

1 開会

2 挨拶

3 委員等紹介

4 協議

(1)大会概要について【資料1】

(2)大会開催形式について【資料2】

(3)大会準備スケジュールについて【資料3】

(4)大会テーマ、記念講演について【資料4】

(5)予算案について【資料5】

(6)分科会について【資料6】

(7)その他

5 閉会

第110回全国図書館大会長崎大会準備委員会規約

(設置)

第1条 第110回全国図書館大会長崎大会(以下「本大会」という)を開催するための準備委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本大会の内容の充実と運営の円滑化を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本大会の開催に関すること。
- (2) 本大会の企画に関すること。
- (3) 本大会当日の業務に関すること。
- (4) その他、本大会に関して必要な事項に関すること。

(構成)

第4条 委員会は、別表1に掲げるものをもって構成する。

(役員)

第5条 委員会に委員長1名、副委員長2名を置く。

2 委員長は長崎県公共図書館等協議会会長、副委員長は公益社団法人日本図書館協会副理事長と長崎県公共図書館等協議会副会長(諫早市立諫早図書館長)を充てるものとする。

(役員の仕事)

第6条 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は、欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第7条 委員の任期は委員会が解散した日までとする。

2 前項の規定にかかわらず、委員が団体または機関の役員職を離れたときは、当該委員の所属する団体が後任者を選出する。後任者の在任期間は、前任者の残期間とする。

(会議)

第 8 条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会は、第 3 条に掲げる事項について審議し、決定する。
- 3 委員会は、委員の過半数（委任状、オンライン参加を含む）の出席をもって成立する。
- 4 委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。
- 5 委員会への委員以外の者の出席は、委員長の判断によるものとする。

(事務局)

第 9 条 本大会の会務を処理するため、委員会に事務局を置く。

- 2 事務局は長崎県立長崎図書館内に置き、別表 2 に掲げるものをもって構成する。

(その他)

第 10 条 この規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が別に定める。

(附則)

- 1 この規約は、令和 5 年 9 月 27 日から施行する。
- 2 この規約は、令和 6 年 3 月 31 日をもってその効力を失う。

第110回全国図書館大会長崎大会 準備委員会 組織体制

(別表1) 【準備委員会】

委員長	長崎県公共図書館等協議会長（長崎県立長崎図書館長）	池田 浩
副委員長	公益社団法人日本図書館協会副理事長	鈴木 隆
	長崎県公共図書館等協議会副会長（諫早市立諫早図書館長）	石山 雅晴
委員	長崎県公共図書館等協議会副会長（新上五島町立中央図書館長）	山本 元之
	長崎県学校図書館教育研究会会長（長崎市立長崎商業高等学校長）	前田 和信
	長崎県学校図書館教育研究会副会長（長崎市立小江原中学校長）	百合野 寿美子
	長崎県高等学校文化連盟図書専門部長（長崎県立島原高等学校長）	岩橋 順弘
	長崎県大学図書館協議会会長（長崎大学附属図書館長）	濱田 久之
	長崎県教育庁生涯学習課長	加藤 盛彦

(別表2) 【事務局】

事務局長	長崎県立長崎図書館副館長
事務局員	長崎県立長崎図書館総務課係長
	長崎県立長崎図書館資料課長
	長崎県立長崎図書館奉仕課長
	長崎県立長崎図書館郷土課長
	長崎県立長崎図書館企画・広域支援課長
	長崎県立長崎図書館企画・広域支援課員
	長崎県教育庁生涯学習課県民学習班参事
	長崎県教育庁生涯学習課県民学習班係長

第110回全国図書館大会長崎大会の概要について(案)

1 大会の概要

- (1) 大会名 第110回全国図書館大会長崎大会
- (2) 主催 公益社団法人日本図書館協会、長崎県、長崎県教育委員会、長崎県公共図書館等協議会、長崎県学校図書館教育研究会、長崎県大学図書館協議会
- (3) 内容 ①全体会 開会式、基調報告、記念講演
②分科会 12～16種の分科会
- (4) 開催日 令和6年11月下旬予定
- (5) 会場 長崎市内で調整中
- (6) 大会規模 例年1,000～1,500人程度
- (7) 運営経費 日本図書館協会からの負担金、大会参加者からの参加費、協賛金

2 実施組織体制

上記主催団体による「準備委員会」により開催準備を進める。準備委員会は令和6年度に「実行委員会」に移行させる。

※開催前年に準備委員会設置、開催年に実行委員会設置

第110回全国図書館大会長崎大会の開催形式について(案)

○開催形式:オンライン形式(一部対面形式)

全体会 開会式(開会の言葉、主催者挨拶)、記念講演→対面形式

開会式(祝辞)、基調報告→WEB配信

分科会 【長崎県担当分】 ①公共図書館分科会→対面形式

②大学・短大・高専図書館分科会→一部対面形式及びWEB配信

③学校図書館分科会→一部対面形式及びWEB配信

【日図協担当分】WEB配信

※WEB配信の分は事前に収録し当日以降一定期間配信する。

※対面開催部分のWEB配信については要検討。

○対面開催部分の日程

第1日目 開会式、記念講演、大学・短大・高専図書館分科会及び学校図書館分科会の一部

第2日目 公共図書館分科会

【参考:近年の開催状況】

H30第104回東京…集会

R1第105回三重…集会

R2第106回和歌山…オンライン(動画配信サイトから収録動画を配信)

R3第107回山梨…オンライン(動画配信とリアルタイムのオンライン会議使用)

R4第108回群馬…オンライン(動画配信とリアルタイムのオンライン会議使用)

R5第109回岩手…集会

第110回全国図書館大会長崎大会 準備日程(案)

令和5(2023)年	9月27日	第1回準備委員会	開催方法、分科会担当の決定 テーマ、記念講演講師等について
令和6(2024)年	2月中旬		分科会調査票締め切り
	2月下旬	第2回準備委員会	大会テーマ、日程等決定、 大会開催要項について(開会式、全体会、分科会、予算)
(令和6年度)	4月中旬	第1回実行委員会	大会要項決定、大会案内、スケジュール、大会予算等について
	4月中旬		共催・後援依頼文書送付
	4月下旬		大会案内原稿締め切り
	5月中旬		大会案内発注
	5月下旬		分科会連絡票・運営委員登録票締め切り
	6月上旬	委託業者選定	大会受付、実施企画、記録作成配布計画
	7月中旬		大会HP開設、参加受付開始、大会案内配布
	8月下旬	『図書館雑誌』8月号発行	大会案内綴じ込み
	9月下旬	『図書館雑誌』9月号発行	大会へのお誘い
	9月下旬		参加者受付締め切り
	10月上旬		参加券(パスワード)等発送開始
	10月中旬		各分科会収録終了
	10月中旬		分科会要旨等原稿・動画締切
	10月下旬	『図書館雑誌』10月号発行	大会への招待
	11月上旬	第2回実行委員会	公開準備・申込状況報告、他
	11月下旬	全国図書館大会 当日	全体会・分科会 ※オンライン配信及び一部対面形式、指定期間配信 他
	11月下旬	全国図書館大会 当日	分科会 ※オンライン配信及び一部対面形式、指定期間配信 他
	12月下旬		『大会記録』原稿締切
	12月下旬		『図書館雑誌』2月号原稿締切
	1月下旬		『大会記録』発注
	2月中旬	『図書館雑誌』2月号発行	大会ハイライト
	2月下旬		『大会記録』納品・発送
	3月下旬	第3回実行委員会	大会結果報告、決算概要報告

1 大会テーマについて

以下のテーマ候補をもとにご意見を集約し、事務局でテーマ案を作成したうえで、第2回準備委員会に提案したい。

【テーマ設定の趣旨】

○図書館および図書館を取りまく未来(ミライ)

デジタルシフト

デジタル図書類の拡充やデジタルアーカイブなど急速に情報のデジタル化が進む社会の中で、取り残される情報難民、知識の格差を作らない。

超少子高齢化社会

人口減少等により疲弊、縮小化していく地域社会の中で、少数化する若者の読書離れやシニア世代の学び直しの高まりなどへ対応するため、図書館の果たすべき役割が高まる。

多様性の時代

だれもが図書館を利用できるよう読書バリアフリーサービスを充実させるとともに、外国人労働者、居住者増加のグローバル時代の中、地域住民として彼らの多様な文化を受け入れ、その学びを支えていく。

地域創生

地域の知の拠点である図書館は、地域のことを良く知るため、また地域の課題解決支援のために「知のデータベース」としての機能を高めることで地域創生に寄与できる。

【長崎との関連】

- ・長崎が日本の歴史において登場するのは戦国時代後期のこと、南蛮文化の流入により西洋諸国の窓口となった。
- ・その後も長崎は出島を通じて、西洋の最新文化や情報を日本にもたらす。長崎の地役人でオランダとの通訳・交渉をおこなった阿蘭陀通詞(つうじ)とよばれる人々は、自らも科学や医学の最新知識を身につけた。またシーボルトの来崎(らいき)は日本の近代医学の魁になった。
- ・阿蘭陀通詞やシーボルトに教えを乞うため、向学心に燃える多くの若者が長崎に集い、彼らによって全国に近代化の種が蒔かれた。そういった意味でも長崎は情報(知)の集積拠点、すなわちハブとしての役割を担っていたといえる。いつしかそうして醸成された長崎独自の文化を「ちゃんぽん文化」「わからん(和華蘭)文化」と呼ぶようになり、それこそが長崎を日本でも唯一無二の街に仕立てあげた。
- ・「わからん(和華蘭)文化」とは、日本の「和」、中国の「華」、オランダの「蘭」の文化が交わってできた長崎独自の文化の通称。

【テーマ案】

①「広がる図書館のミライ 和華蘭(わからん)文化のまち長崎から」

→DX化、デジタルシフト、バリアフリーなど変わり続ける図書館の未来、役割について考えていこうという意味。鎖国時代、海外の窓口として唯一開港していた長崎。変化を恐れず、多様なものを受け入れ、独自の文化を築いてきた多文化のまち長崎からという思い。

※未来は「ミライ」とカタカナ表記に。ミライon図書館が地域に親しまれているといった点も考慮して

②「図書館がつなぐ 人・まち・ミライ ～21世紀の出島(長崎)から～」

→コロナ感染症の拡大から急速に進んだデジタル化など変化への対応、さらに人口減少が進んでいく中での図書館の存在意義や本と人、人と人、人とまちをつなぎ、未来へとつなげる役割をどのように担っていくかを考える。

※長崎県は離島半島部、過疎地域を多く抱えているという実情

そこに、鎖国時代でも扉を開け、懸け橋となって物資、文化、情報を入れてきた多文化の象徴である出島を入れた。

③「ミライへと舵をとる 知の港、長崎から」

→DX化、デジタルシフト、バリアフリーなど変わり続ける図書館の情勢。その変化にしっかり対応した豊かな知識や情報を発信し、未来へとつなげていく(図書館の未来へ、人・まちの未来へ)ためにしっかり舵を取っていくという思い。海に囲まれた港町長崎のイメージも入れる。

【参考:過去の大会テーマ】

第109回 R5 岩手大会『理想郷“イーハトーブ”で本当の幸せを考える

～希望ある未来は図書館とともに～』

第108回 R4 群馬大会『本と人が織りなす図書館の未来』

第107回 R3 山梨大会『知をつなぐ 甲斐(交ひ)の国から』

第106回 R2 和歌山大会『図書館の歩みとこれから—南葵から新しい時代への想いを繋げる—』

第105回 R1 三重大会『令和の新時代を拓く図書館～常若のくにからの発信～』

2 記念講演について

講師(案):小説家 澤田 瞳子(さわだ とうこ)氏

【プロフィール】

- ・京都府生まれ。京都市在住。同志社大学文学部卒業、同大学院博士課程前期課程修了。
- ・2010年『孤鷹の天(徳間書店)』で小説家デビューし、同作で中山義秀文学賞を最年少受賞。
- ・2012年『満つる月の如し 仏師・定朝』で本屋が選ぶ時代小説大賞、新田次郎文学賞受賞。
- ・2021年『星落ちて、なお』で第165回直木賞受賞。他の著書に『火定』『落花』『稚児桜』など多数。
- ・現在、同志社大学客員教授、朝日新聞書評委員、京都文学賞アンバサダーなど任中。社会教育や国語教育にも関心が深く、自らも図書館でボランティア活動に参加するなど実践をおこなっている。
- ・長崎の歴史・文化にも造詣が深く、2020年2月、長崎県が実施する「描(か)いてみんな!長崎」事業により長崎を訪れ、唐寺など黄檗関連史跡の取材を行う。現在、長崎での取材成果をもとに隠元禅師とその周辺の人々を描く連作短編を「オール読物(文藝春秋)」にて連載中。

第110回全国図書館大会長崎大会予算（案）

資料5

【収入】

（単位：円）

	当初予算	摘要
参加者収入	4,400,000	県外（オンライン）4,000円×700人 県内（オンライン）2,000円×50人 県外（対面）6,000円×200人 県内（対面）3,000円×100人
負担金	5,000,000	
日本図書館協会	5,000,000	
補助金等	0	
広告収入等	300,000	広告料、出展料等
合計（c）	9,700,000	

【支出】

	当初予算	
報償費	1,355,000	全体会講師・分科会講師・発表者等 手話等・要約筆記
旅費	446,000	講師・発表者・実行委員会委員・事務局等
需用費	2,260,000	
食糧費	100,000	来賓・講師・スタッフ弁当代
印刷製本費	1,860,000	大会案内・大会記録
その他消耗品費	300,000	用紙、インク、文具類等
役務費	550,000	通信運搬費、音声ファイル反訳、振込手数料
委託料	5,000,000	受付事務等業務委託
使用料	0	会場使用料
予備費	89,000	
合計（d）	9,700,000	

分科会について(案)

第110回全国図書館大会長崎大会分科会

分科会・展示会	内 容	担 当
第1分科会	公共図書館	県立長崎図書館 長崎県公共図書館等協議会
第2分科会	大学・短大・高専図書館	長崎県大学図書館協議会
第3分科会	学校図書館	長崎県学校図書館教育研究会 県立長崎図書館
その他の分科会	未定	日本図書館協会
展示会	未定	未定

※参考資料:過去の分科会一覧